

平成二十六年入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小論文

教育学部 学校教育教員養成課程

小・中学校教科教育コース 国語教育専修

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、解答用紙は、オモテ面を書き終えたらウラ面に続けて書くこと。
- 四、解答用紙の他に、下書用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 五、解答時間は、一二〇分である。
- 六、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。
- 七、解答する際の字体は楷書とし、ていねいに書くこと。

## 問題

次の文章は、栗木京子『短歌をつくろう』（岩波ジュニア新書）の第四章「言葉をみがこう」、1「オノマトペを生かす」の一部である。よく読んで、後の設問に答えなさい。

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

(栗木京子、『短歌をつくろう』、岩波ジュニア新書、二〇一〇年、八二～九四ページ、抜粋・一部改変)

問一 傍線部「工夫次第でオノマトペの可能性はどこまでも広がりそうです」とあるが、筆者が考えるオノマトペを用いる際の「工夫」と「可能性」について、本文に即して述べなさい。

(二〇〇字程度)

問二 小学生の子どもたちを対象とする、オノマトペを使った国語科の授業を考え、具体的に述べなさい。(短歌の授業に限らなくてよい。)

(六〇〇字程度)

平成二十六年入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小論文

教育学部 学校教育教員養成課程

小・中学校教科教育コース 国語教育専修

出題の意図

本専修では、平成二十三年度は民話（口承文学）の世界について説いた素材文を、二十四年度は世界各国の国語教科書について紹介した素材文を、二十五年度は琉球方言のもつ美しさと生命の輝きについて述べた素材文を、小論文の出題文としてきた。国語科の世界の豊かさを生かして、多様な素材文を提供し、受験生が付け焼き刃でない「国語科へのこだわり」「国語への思い」を持っているかどうかを、小論文試験において測りたいと考えている。今年度は、「オノマトペ（擬態語・擬音語）」について、短歌のなかでそれを使うことにより、いかに豊かな表現ができるかをわかりやすく説いた文章を、素材文に選んだ。

オノマトペは、子どもたちの生活感に密着に結びつくとともに、彼らの言語世界を広げる可能性を秘めた、想像力にあふれた創造的なことばである。小学校国語科でオノマトペを取り上げることが、子ども達の感性・感受性を豊かにすることにつながる。また、現在の国語科教育で力を入れている音読指導にも深くかかわりを持つ。「オノマトペ」に関する筆者の考え方をしっかりとつかんだうえで（問題一）、国語科教師をめざす立場から国語の授業にいかにもイメージを描けるか（問題二）を、測りたい。すなわち、この入学試験問題は、受験生が教育学部学校教育教員養成課程のアドミッションポリシーにおける「1 教員として子ども及び社会と関わっていきたい人」「2 教育の理念と実践を広く深く学ぶ意欲のある人」に適う人材であるかどうかを確認しうる内容となっている。